

BBC という注射みたいな放送局・イギリスの国営放送で、あるレポートが発表されました。「シマウマの縞は何に役立っているのか？ 今までも色んな人が色んな事を言っていたが、今回実験で普通の馬に縞柄のコートを着せたら、ある事が立証できた。実は、ハエがたからない。」ハエって、あの蠅です。ブンブン飛んで、五月蠅と書いて「うるさい」と読みますね。縞柄のコートを着た馬には、蠅が止まれない。止まってもぼろぼろ落ちる。なぜか？ 縞柄の上をハイスピードで回転飛行していると、蠅は目を回すそうです。それで、着地しようと思ったら、あらら。ぼろぼろ落ちる。

これは、アフリカにいる馬にとっては非常に重要な事です。日本の蠅は血を吸わない。吸血昆虫ではない。でも、アフリカ大陸には血を吸うツェツェバエがいます。この蠅は血を吸う時、自分の管の中にあるウィルスみたいなものを相手にうつす。これが脳に回ると“眠り病”という病気に罹り、脳細胞がやられてウトウトして、最後には死に至るのです。人間も毎年何万人もの方が、ツェツェバエによる眠り病で亡くなっているそうです。

ところが、シマウマは縞模様のおかげで、ツェツェバエがポロポロと落ちるわけ。つまり究極の虫除け対策。これは蚊にはダメ。蚊にも効くんだったら、縞模様、日本全国、全員タイガースになって対処できたらいいかと思うけど、中々そういう訳にもいかない。

シマウマには「縞模様だと蠅が落ちる」なんて全然分からないけど、DNA の中にそんな体のデザイン・設計図が書いてあるので、その姿をしているのです。プログラムがあるという事は、プログラマーがいるという事。デザインがあるという事は、優れたデザイナーがいるという事。設計図があるという事は、設計者がいるという事。大自然をお造りになった設計者である神様が、一介の野生動物にも惜しみなく知恵を与え、素晴らしいデザインに造って下さるとするならば、馬よりもはるかに優れている人間には、もっと惜しむ事なく、素晴らしい祝福を準備しておられるに違いないんです。

長野県の飯山という所を少し上に行くと栄村という村があって、先月その旅館で神様のお話をしました。朝7時からの集会ですよ。7時起床じゃない。集会が始まる。辛い辛い。何とかギリギリ間に合って、神様が世界をお造りになった事を一生懸命話しました。27 人もの方が来て下さって素晴らしい集会でした。終わってから1人の方が「質問です。先程、キリスト教の話にも拘わらず、曹洞宗の話をされたのですが、何の関係がありますか?」「？」

曹洞宗は鎌倉仏教の1つで道元(1200-1253)が開祖。禅宗です。でも、私はそんな事、言ってません。天地万物をお造りになった造り主・神様がおられる事を話したんです。曹洞宗の話はしてない。「した」「いや、してない」「した」「してない」。そんなに言うのなら、したのかなあ。よく考えたら分かりました。「そうぞうしゅ」。創造主という言葉、余りにも聞き慣れていないので「そうとうしゅう」に聞こえた。聖書は、私たちの造り主を「創造主なる神」と言います。創造主は皆さんを造った神という意味。あなたには作者がいるのです。

神様は、なぜあなたをお造りになったと思いますか？ 神があなたを愛しておられるからです。愛するつもりが初めからないなら、元々造ってません。私たちも、自分を不愉快にするようなものは存在させないでしょ。便利な物や気持ち良くなる物・ステキな物・心をほっとさせる物を作るんじゃないですか？

今ここにあなたがいるという事・あなたの存在自体が、神があなたを愛している証拠の1つです。その神様が私たちに「このメッセージを聞いて欲しい」と繰り返された祝福のメッセージが福音です。「祝福の音信」という言葉が縮まって「福音」。今日は、この福音をととても分かり易く解説している箇所を、一緒に考えたいと思います。

ローマ 3:23-24 **すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。**

福音は祝福のメッセージ、英語ではグッドニュース。だけどここでは、2つの要素で構成されています。前半は、はっきり言ってバッドニュース/悪い知らせ。すべての人は罪を犯しての「すべて」の中にあなたも入っている。「神の栄光を受けることができず、神様が準備している素晴らしい祝福にありつく事ができない。神様があなたに持っている素晴らしいプランを、あなたは受け損なっているのだ」と宣言するバッドニュース。しかし後半はグッドニュース。それは後でお話します。

今日お話ししたいのは、特にこの前半の「**全ての人は神の前に罪人である。**」これはどうしても言わなければならない。なぜなら、自分が罪人である事が分からないと、罪の赦しの必要性を持たないから。「私、どんな罪を犯したの? 別に裁判で有罪判決を受けた事ないし、警察に捕まった事ないし、ちょっとあるけど」みたいな。「でも、あれくらい皆やってるし、神様から罪人呼ばわりされる程ではないんだけど」と言う方が案外多いのではないのでしょうか。

ローマ 3:12 **すべての者が離れて行き、だれもかれも無用の者となった。**

全ての人々が罪を犯した。全ての者が離れ去った。私たちの造り主である神から離れる事を聖書は「罪」と言うのです。法律を破る事は犯罪。聖書が言う「罪」の厳密な意味は、神から離れて生きる事。神がいたとしても無関係に生きる事。神がいないかのような人生観で生きる事。

なぜ、神を無視して生きる事が罪というひどい言葉になるのか? アメリカ・デューク大学のメディカルセンターの研究者が、こんな研究発表をしたそうです。「もし感謝する薬が発明されたら、殆ど全ての内臓疾患に劇的な効果を現し、殆ど全ての精神疾患に素晴らしい癒しをもたらす事になるだろう。」それを飲んだら、感謝の気持ちでいっぱいになるという薬。無理です。でも、それが出来たら、殆どの病气から解放されるのではないかと。というのは、感謝している時、幸せホルモンのセルトニンが出るから。

興奮したり怒っている時は、交感神経のスイッチオン。心臓バクバク・血管収縮・戦闘態勢に入り、キーンとなる今の私。これは戦闘態勢なんやね。だけど感謝している時は、副交感神経のスイッチオン。「ありがたいなあ。こんなに素晴らしい人たちに恵まれて。」「知らない所で、こんな親切がなされていたんだ。」「こんな風に愛されて、応援されていたのか」と感謝の気持ちでいっぱいの時、「何て不幸なんだ」と感じる人はいません。感謝している時は、基本的に幸せで余裕がある。

一緒にいて、くつろげる人はどんな人ですか? 私にとっては余裕がある人です。せかせかして「あと何分でメッセージや!」とか言う人が側にいたら、暑苦しいですよ。

皆さん、余裕ありますか? ゆったりして。でも寝ないでね。頭冴えて、余裕があったら素晴らしい。

感謝の反対は、当たり前と思って生きる事。当たり前という考えの態度。

太陽が昇る＝当たり前。空気が吸える＝当たり前。水がある＝当たり前。愛する家族がいる＝当たり前。

大地がある＝当たり前。自然界がある＝当たり前。

宇宙に出たら、この地球環境は絶対に当たり前じゃない。私たちがタダで使用している水・空気・食物・太陽エネルギー・重力は全て、人が作ったものではなく、この世界をお造りになった方が、私たちのために無料で準備して下さったもの。私たちは創造主によって生かされているんです。

神はいないという事では、こういうのは昔から進化して当たり前。当たり前と思ったら感謝がない。感謝できないという心の姿勢・人生の態度が、人間をいかに病むものと変えてきた事か。

神なんかいないという態度が、なぜ罪という言葉で言われるのか？ ひと言で言うと、恩知らずだから。命の恩人というか、創造主が備えてくださったもののおかげで生きているにも拘らず、それを無料で提供している神なんか要らんという態度は恩知らず。なので、この的を外した生き方・**神から離れて**生きる事を罪と言うのです。

罪という言葉聞いた時、「ああそうか…。今まで創造主から**離れて**、自分を神にして生きて来たんだ！」と思える方は、救いにすごく近いです。でも「それ、クリスチャンの考え方やし。」中々ピンと来ない。どうして、神に対する罪がピンと来ないのか？ 1つには、姿が見えない事があると思います。

ラジオでも少し話しましたが、『ごんぎつね』という童話、ご存知ですか？ いたずら好きの狐が時々山から村里に下りて来て、人間が困るようないたずらを次々やって、人間が慌てふためいている姿を見てスカッとする。嫌なヤツ。ある時山から下りると、川で兵十（ひょうじゅう）がウナギを取っている。「こんな季節外れにウナギを取るなんて、いやしい奴やな。」

兵十がウナギを入れ物に入れ、2匹目を取っている間に、ごん狐が来て、それを取り出して川に逃がす。2匹捕まえたと思って入れ物見たら、さっき入れたはずのウナギがない。「おかしいな」と思って3匹目を取りにかかるけど、またごん狐が逃がす。繰り返すうちに「誰かがやってるな。」それで、取っているフリをしながら注意を後ろに向けていると、ごん狐が逃がしている。「こら！」と怒鳴りつけると、「今頃気がついたのか、このマヌケやろう！ おしりぺんぺん！」みたいに憎たらしい事を言って山に逃げて行き「今日もストレス解消！ スカッとしたり！」

次の日、またいたずらしてやろうと村に下りて行くと、いつもとちょっと様子が違う。線香の臭いがして、兵十の家から葬式が出ている。兵十はお母さんと2人きりです。そのお母さんが亡くなった。兵十はぼろぼろ涙を流しながら、何か独り言を呟いています。聞き耳を立てると、「おっかあ、死ぬ前にひと口ウナギを食べたいと言ったから、昨日、一生懸命取ろうとしたけど1匹も捕まえられなかった。最後に好物のウナギを食べさせたかったのに出来なくて。おっかあ、ごめんな。」号泣している。

それを見た瞬間、ごん狐の心に、突然何かが突き刺さりました。今までは「いたずらをして悪い事した」という気持ちになった事は1回もなかった。しかし今、自分がした事の結果、心がズタズタになっている人の悲しみの姿を見た時「何という事をしてしまったのか！」彼は深く悔やむようになります。今までいたずらしても平気だったのは、被害を受けた人の姿を見た事がなかったから。でも今回は、自分のいたずらのせいで、心が潰れそうな悲しみのどん底に陥っている兵十を見た。「やってはいけない事をやってしまった…。」ごん狐は、初めて良心の呵責を覚えるのです。

神様に対する罪が、なぜピンと来ないかということ、神の姿が見えないから。もし愛する人から「お前なんか要らん！」と言われたら、どんな気持ちになりますか？

神はあなたを愛の対象として、愛してお造りになりました。その愛している人が「神がいたとしても、私は関わりを持ちたくないね。神とは無関係。」「自分自身の力で生きていきたい。」「もし神だと頼るものがあるとしたら、それは私だ。」と、造り主から離れて生きる生き方は、実は神の心を深く傷つけている。神の姿が見えないので、それがどんなに恐るべき事なのか、よく分かっていないのです。

更に、「神を畏れる」という事・「私をご覧になっている方がおられる」という感覚を失うと、人間は罪に於いて、ブレーキが壊れてエスカレートします。

ローマ 3:12 すべての者が離れて行き、だれもかれも無用の者となった。

これは、神が意図した目的を達成する上で、役に立たなくなったという事。神様は一人ひとりの人間に崇高な使命を持っているのですが、神から離れているので、神がその人に立てているプランは実現しないまま終わっている。無用の者となった。それだけでなく、

ローマ 3:12-13 善を行う者はいない。だれ一人いない。彼らの喉は開いた墓。彼らはその舌で欺く。
対神関係の罪が、対人関係に於いても次から次にエスカレートしてブレーキが利かない。暴走している。

10年前、人生に於ける危機がありました。中々立ち直る事ができず、非常に苦しい時期があったんです。三重県の山奥に別荘を持っている友人が見るに見かねて、「高原さん、ずっと働き続けるよりもちょっと、自分と、そして神様と向き合う時間を持った方がいいよ。別荘を貸すから行ってみたら？」
今回だけは言葉に甘えようと、車で大阪から三重まで名阪という道路を使いました。

名古屋の名と大阪の阪で名阪。実に中途半端な高速道路なんですよ。高速のゲート入るけど、途中で一般道になる。一般道なのに、途中からまた高速道になる。何て中途半端。でも、途中一般道路になるので高速料金がすごく安い。それで、多くの長距離トラックがそれを使って名古屋の方に行くのですが、追い越し車線しか空いてない。走行車線は長距離トラックが数珠のようにズラッと繋がっています。

追い越し車線を走っていたら、後ろから煽り運転。煽り運転、怖いで。車高の低いヒラメみたいなペタンコ車。「オーッ！ のけ！ 道譲れ！」みたいに車の顔が言うてる。のきたいけど、走行車線はトラックがいっぱいで入れない。意地悪で、のかないんじゃないで入れない。だけど煽られるから「仕方ない。とにかく飛ばせ」で、スピード上げたくないのに上げて。ようやく先頭車両の所まで行って道譲った瞬間、その車がブワッ！ 姿が見えなくなりました。すごい運転。

しばらくすると、後ろにピタッとパンダカラーの車が付いたんです。僕はパンダが嫌いなんですね。白と黒だけの柄はパトカーを連想するから。「前の車、止まりなさい。」まさか自分の事とは思わないから「誰か捕まるんや。ハハ！」ところが「たまご色の車！」乗っていたのがたまご色で、持ち主は尼川さんだったんですけど。「路肩に止めなさい。」「たまご色の車？ そんな車あるんか？ 俺や！」路肩に止めました。

〈スピードオーバーですよ。〉「いや、オーバーしてませんけど。」〈いや、すごく出てました。〉「あ、さっき煽られていたので、止むを得ず・短期間・僅かな間・ほんの一瞬・瞬きする間だけ、ちょっとスピード出したかもしれません。」〈瞬きどころじゃないですよ。すごく出ていました。免許証出して下さい。〉
「出しませんよ。確かにスピード出ていたかもしれないけど、煽られたんです。私を捕まえるよりも、煽った車を先に捕まえるべきじゃないですか。論理的ですよ。」〈その車はその車で捕まえたいと思いますが、あなたの車も出ていましたから。〉「でもね、お巡りさん。あなたが私の立ち場ならどうする？ 煽ら

れてるんですよ。命が危ない。危険だと思ったら、止むを得ず、するんじゃないですか？ それとも私に死ねとも言うんですか?!」くそうは言っても、何キロオーバーかご存知ですか？ 55 キロです。これは見逃せません。」「そんなバカな。」「バカな事、ありません。データがあります。」「捏造じゃないんですか?!」自分の口調が段々恐く・薄汚く・見苦しくなっていくのが分かりましたが、「55 キロ、罰金なんぼやねん？」カチャカチャと頭の中で。でも観念して「あらよ！」みたいに免許証をお見せしたんですけど。

彼はじっと見て、「たかはらごういちろう…おたく、ラジオ番組に出てますか？ 私の妻はクリスチャンで、あなたの番組の大ファンで、家でよく聞かされてるんですよ。私はクリスチャンじゃないけど、私がいると大きなボリュームにして、あなたのメッセージを流してます。あの高原さんですよね。」なぜか知らないけど、後ろ見たんです、私。どっかに高原って、おれへんかなと。

「いやあ、残念だなあ。妻が尊敬している人を逮捕するなんて。」穴があったら入りたかったですね。私を知っている警官じゃないと思っていた時は、「あなたが私の立ち場なら、どうするんですか?!」とか言ってたけど、間接的であれ、私の事をよく知っている人に捕まった瞬間、突然羞恥心が作動し始めた。言外に「ラジオではええ事いっぱい言うてるけど、捕まったらこれかよ。メッセージでは『素直に罪を悔い改めよ』って言うてるけど、交通違反したら、見苦しい言い訳を延々と続けるんか」と。その時、「ああ主よ、赦してください!」

私をよく知っている方が、私の恥ずかしい事を見ているというのが分かった時、突然良心が作動する。平常になる。羞恥心が働く。だけど「私の事を見ている存在はどこにもない」と思ったら、ブレーキにならないんじゃないですか？「神なんかいない。私の事を知っているものはいない。私を見ている存在はない」と思っていたら、羞恥心が中々働かないと思います。その事が、罪に対する抵抗力を奪うのです。

神から離れるという事は、対人関係での罪に於いても、人をエスカレートさせます。何よりも一番大きな問題は、罪の結果。罪から来る報酬は「死ぬ」という事。いのちのルーツである神様から離れた結果、人は死ぬものとなり果ててしまいました。

私はお坊さんの中で一休さんが好きで、今でも彼が書いたものを時々読みます。ある時、初孫を得て喜んでる人が「一休和尚、私は嬉しくて仕方ない。何か一書、書いて下さい。」「めでたいのう」と言って、さらさらと書いたのが「親 死ぬ 子 死ぬ 孫 死ぬ」。「孫が産まれて喜んでるのに、なぜこんな不吉な事を書くんですか？ あんまりじゃないですか!」

「これが、この世で人間が持てる精一杯の幸せだと思う。この順番が逆だったらと考えてごらん下さい。『孫 死ぬ 子 死ぬ 親 死ぬ』。最初に孫が死んだら、親である自分の子は悲嘆に暮れるだろう。それを見ているあなたはどんな気持ちか？ その子が悲嘆して死んでしまったら、あなたは独りぼっちだ。その時のあなたの悲しみはどうだ？ 『親 死ぬ 子 死ぬ 孫 死ぬ』、素晴らしいじゃないか。」

ここにあるのは、「死は仕方がないんだから、せめて歳の順番に死ぬという事で折り合いつけよう」「死に対しては、諦めるより他に仕方がないから、それを受け入れよう」「人間は死には無力で、戦っても勝ち目がないから、抵抗せずに敗北しよう。それが一番楽」という人生観。これは、神無き人生観です。

しかし、聖書は死がなぜ来たのかを語っている。いのちのルーツである神様から切れたので、その結果、人は死ぬものとなった。つまり、罪の問題を解決する事ができたなら、死の問題も解決するという事なのです。

ローマ 3:23 **すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、**

これは、神の栄光がどこにもない世界に堕ちて行くという事。

罪の結果、神様の恵み・祝福・素晴らしさがどこにもない世界に行く。その世界を地獄と言うのです。

ヘブル 9:27 **人間には一度死ぬことと、死後にさばきを受けることが定まっている。**

全ての人が死後に裁きを受ける事が定まっていて、罪の解決を持たないなら、罪の結果、地獄に行く。

なので、こう言い換える事ができます。「人間にとって一番の問題は罪です。罪が人間を不幸にしている第1原因。だから、罪の問題の解決なしに、どんな祝福や幸せを約束しても、それは見掛け倒しで、本当の祝福はあり得ない。」

そこで神様は、罪の問題の解決を計って下さいました。

ローマ 3:23-24 **すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、**

これが前半部分のバッドニュース。しかし、後半部分があります。

神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

神様は人間の死に向かって行く運命を転換するために、**イエス・キリスト**を送って下さいました。

その動機は、**神の恵みにより**。

私にとって聖書のお話をする事は、すごく嬉しくて・特権で・生き甲斐です。

が、子供に話すのだけはちょっと苦手。私も以前は日曜学校をやってて楽しかったですね。

特に自分の息子・娘がまだ子供の時には、子供へのアプローチの方法が分かっていたし、パパだから色々なやり方が分かっているので、子供たちの同世代に話すのは比較的簡単でした。

しかし、この歳になりました。はっきり言って、私って若々しいですよ。でもね、若くないのよ。

パッケージは若く見えても、中身は枯れてるのよ。ある時から、豚骨ラーメンから塩ラーメンに切り替わった。コテコテ油もんはダメ。淡泊な方がいい。

それだけ年齢が離れた子供たちと話す時、もう世代間ギャップ。子供と私の間に、2個くらいの世代が挟まってますやん。何が嬉しいのか、楽しいのか、分からへん。

初めての人とすぐに仲良くなったり、通じ合ったりする秘訣が1つあります。それは、共通の友達の話・共通の憧れの話をする事。私は東京に行っても、すぐに友達になれる。タイガースファンとか「ああ、そうだよな!」となる。だけど、子供たちと私の共通の友達、誰や? 1人もおらへん。

だから、子供たちに話しをするのは辛いよ。

それでも年に2回、話をする事があるんです。1回は東住吉の集会でのお楽しみ会。7月にやりました。240人来たんですよ。その内の80人は大人。保護者。残り160人が子供たち。240人が私語したら、言葉の洪水の中、洗濯機の中で回されてる感じ。子供たちに話すのは難しい。

もう1つは広島。毎年頼まれるから。試練に耐えながらやっているという感じですよ。

だけど、子供たちに話した後で、初対面なのに話しかけてくる子供が毎回2・3人いるんです。その話題の内容が全国同じなんです。誕生日の話。子供って、誕生日が好きですよ。

大人はある年齢以降、誕生日が怖くなる。「遂に、大台に乗ったか…。」

だけど、子供は誕生日が好き。「あんな、あんな、今日ぼくの誕生日やねん!」

ある女の子は「来年、わたしの誕生日!」えらい先やん。別に、私にプレゼントを要求しているんじゃない。「誕生日だったんです」と報告してくれて、「そうか。誕生日、良かったなあ。だって君が生まれて来てくれたから、今日こうやってお話しできるよな。ええなあ。」「うん!」言うてね。で、「これから話している時は、静かに聞こうね」と言うんです。これ、ポイント。

なんで、子供はあんなに誕生日が好きなのかを考えたら、無条件で自分を肯定してくれる日だからです。誕生日は、何かいい事をした訳でもないのに「誕生日、おめでとう!」。ノーベル賞や運動会で1等を取った訳ではない。ただ、息してるだけ。それなのに「おめでとう!」。皆さん、生きてるだけで「おめでとう」、最近言われました? 「アンタの性格、めでたい」そういうのはあるでしょう。そんな意味ではなく「あなたの存在そのものが、私にとっては喜びなんです!」と。

子供って、日頃、叱られる事が多いんじゃない? 家で叱られ、学校で叱られ、習い事のお教室で叱られ、道で叱られ。それも大事な事やねん。それしないと躰けられないから。ほめられる事もあります。でも、それはどんな時かというと、進んで勉強した時・お手伝い頑張った時・脱いだ服ちゃんと畳んだ時・脱いだ靴揃えた時。とにかく、ほめられるのは、ちゃんとやった時・良い結果を残した時・頑張った時。

誕生日というのは、ちゃんと出来なくても、頑張っても、良い結果を残した訳でもないのに、ただ、自分がそこにいるというだけで「君が生まれて来てくれて嬉しいよ!」こんな日は1年に1回しか来ない。だから、子供たちは「誕生日やねん!」「もうすぐ誕生日、くんねん!」大騒ぎするんです。

私思うんですが、そういう願いは、大人だって持っているんじゃない? 大人だって、心の深い所で「頑張った時だけでなく、頑張れない自分も赦して欲しい。」「ちゃんと出来ない自分も愛して欲しい。」「良い結果を残せなくても、丸ごと受け入れて欲しい」と。

人生の出来栄とは無関係に、無条件で、「わたしはあなたの存在を喜んでる。」「わたしはあなたを愛している。」この神の態度の事を、神の恵みというのです。神様はあなたを愛しておられる。良い事をしている時だけでなく、いいですか、罪を犯している最中であつたとしても、です。あなたの存在そのものを愛しておられるのです。行っている罪そのものには、神様の正義の怒りがあるでしょう。しかし、あなたの存在そのものは神様の前に尊く愛らしい。神ご自身があなたを愛しておられる。

神のあなたへの愛を具体的に現すために、この世界に来てくださった方がイエス・キリストです。人となられた神・あなたの人生の大問題を解決するために、この世界に来てくださった、あなたのための救い主。この方こそがイエス・キリスト。なので、こう書いてあります。

ローマ 3:24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

イエス・キリストがあなたの罪を背負って十字架にかかり、あなたが本来受けるべき裁きを、ただ1人で全部受けてくださいました。そして、あなたにとって最大の問題である死を滅ぼすために、墓に葬られ、3日目に死を突き破って復活してくださったのです。

あなたが自分では出来ない事なので、神はイエス・キリストに、あなたに代わって罪の償いをさせてくださった。このイエス・キリストを自分の救い主として信じるならば、神のもとに立ち返る事ができます。

神様が準備した全ての祝福のプランを、受け損なう事なく、もれなく受け取る事ができるのです。

ローマ 3:25 神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥め (なだめ)のささげ物として公に示されました。

信仰によって受けるべきの「信仰」はギリシア語で「ピストス」。これには2つの意味があります。「信頼」と「真実」。ギリシア語では両方ピストス。ヘブライ語も同じです。ヘブライ語では真実を「アーメン」とか「エムナー」と言って、これには「信頼」の意味も含まれているのです。

私は人間の評価で一番重要なのは、頭がいいとか、手先が器用とか、天才的頭脳の持ち主とかではなく、真実な人かどうかだと思います。頭が良くても・大金持ちでも・真実じゃない人はたくさんいる。真実な人っていいですよ。

私は次男に「神の真実を生きる人であって欲しい」と思って「主真/かずま」と名づけました。これを音読みすると「シュマ」。ヘブライ語で「聞け」という意味。「シュマ イスラエル」という祈りがありますが「聞け」。この根底には、真実が人間には一番大事じゃないかという気がするんですね。

ところで、どうして真実と信頼が同じ単語なのか？ 私たちが誰かの事を「この人、信頼できるかな・信頼できそうだな・信頼できるに違いない」と思うのは、その人の真実を見て確かめた後に起こる事なんです。態度や選択・振る舞いを見て「何て真実なんだ」と思った時、その人を信じてみてもいいという気持ちになる。信頼できるか否かは、その人の真実にかかっているのです。

聖書は言います。「イエス・キリストを信頼しようじゃありませんか。」なぜなら、この方は地上の生涯に於いて、弟子に裏切られ、良くしてあげた人たちからののしられ、でっち上げ裁判を受け、ありもしない事で濡れ衣を着せられ、人間から不当な事を次から次へと浴びせられ、試されて試されて、十字架にかかった方なんです。

「この野郎!」となったら、そこまでの人間。だけど、どんなに試されても、その人格からは真実しか出てきませんでした。十字架にかかっている時でさえも、自分を十字架にかけた人々の赦しと祝福を祈った方です。真実の塊のような方。神の真実を持ったまま人となられたお方。この方だけが、あなたのために死んでよみがえった方です。「真実のゆえに、この方を信頼できるのではないですか?」と聖書は語っているのです。

ローマ 3:25 神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。それは、皆さんがキリストを信じて、全ての罪を赦され、永遠のいのちを得られるためです。是非、イエス・キリストを信じてください。心からお勧めします。



* 動画は YouTube で「HCA 東住吉キリスト集会」検索。ぜひ見て下さい。
* ラジオ番組「聖書と福音」(約14分)も是非どうぞ。YouTube もあります。 動画筆記 : Rumi